

- 成長の次のステージへ -

2026年3月期 決算説明資料



2026年4月24日

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

業績は過去最高を更新し、成長は加速

増収増益を継続し、利益成長は更に加速

- ・売上高は14期連続の増収、7期連続で過去最高を更新
- ・営業利益・経常利益は過去最高益を更新
- ・経常利益は17期連続の増益、15期連続で過去最高益を更新

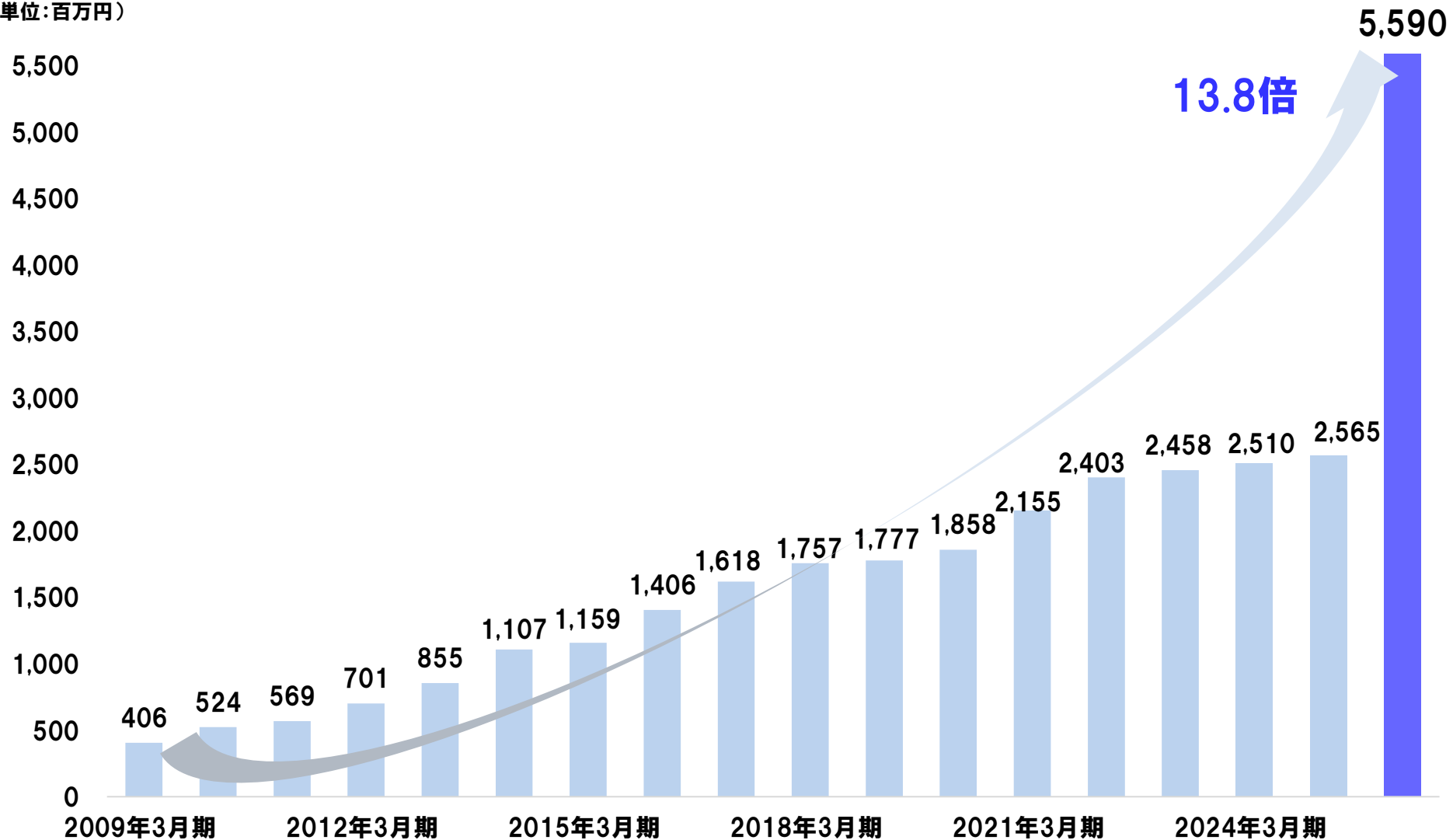
(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 公表予想数値 (2026年2月20日 時点)	2026年3月期		前期比 増減
売上高	11,568	27,000	+860 +3.2%	過去最高 27,860	2.41倍
営業利益	2,269	4,550	+605 +13.3%	過去最高 5,155	2.27倍
経常利益	2,565	4,900	+690 +14.1%	過去最高 5,590	2.18倍
当期利益	1,646	2,650	+423 +16.0%	3,073	86.6%

積み上げてきた利益成長が、将来の成長を裏付ける

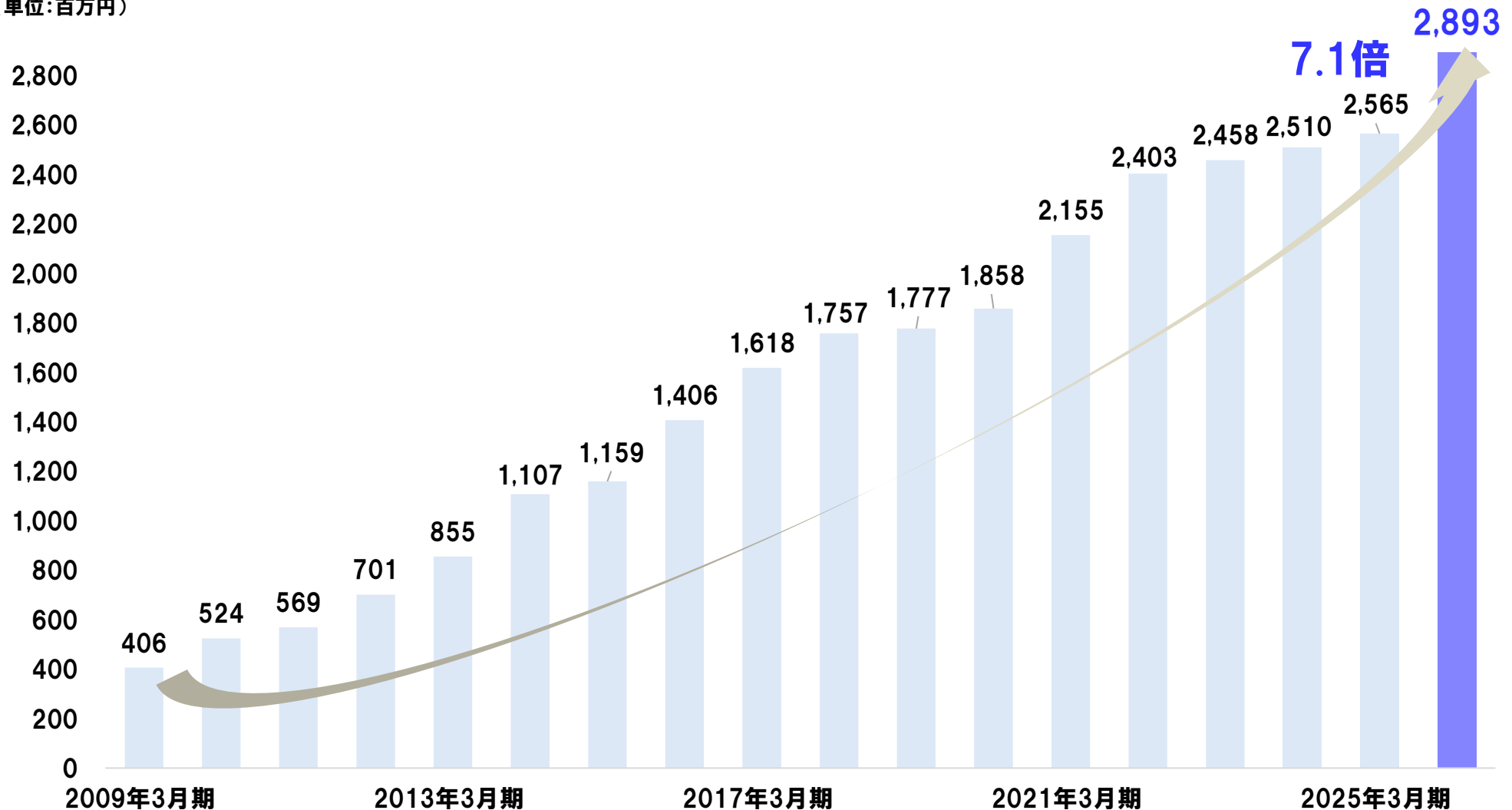
17期連続増益の経常利益の推移

(単位:百万円)



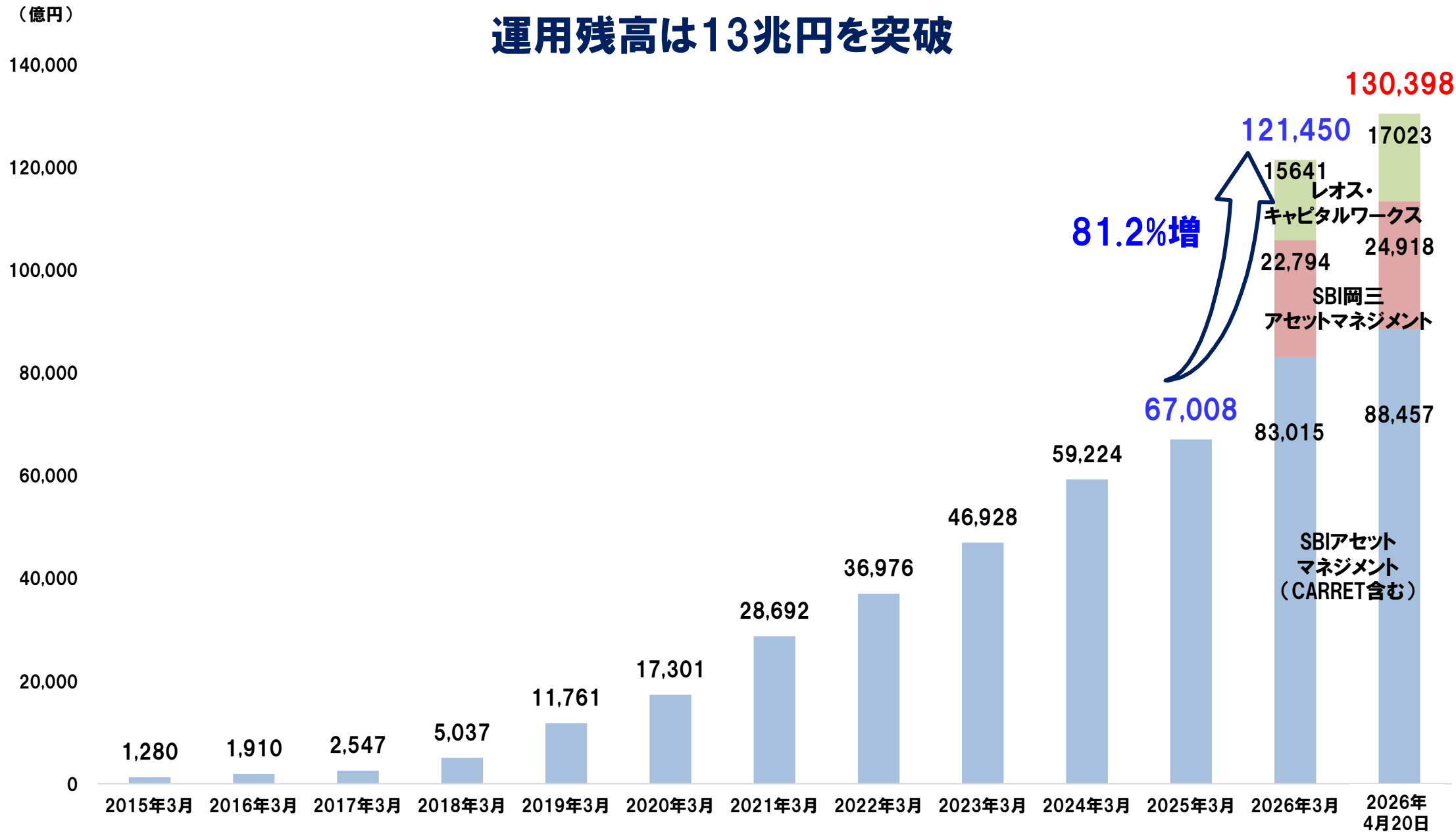
旧SBIグローバルアセット単体(除くSBI岡三・レオス)でも 17期連続の経常利益の増益を達成

(単位:百万円)



運用残高は順調に拡大し、成長基盤を強化

運用残高は13兆円を突破



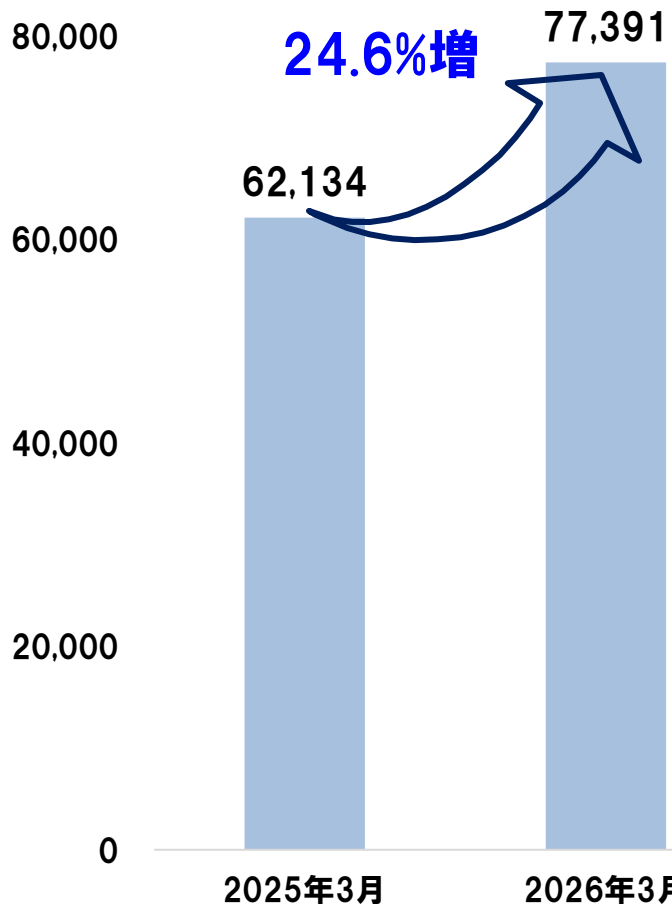
3社すべてが高成長を実現し、運用残高は拡大

<SBIアセットマネジメント>

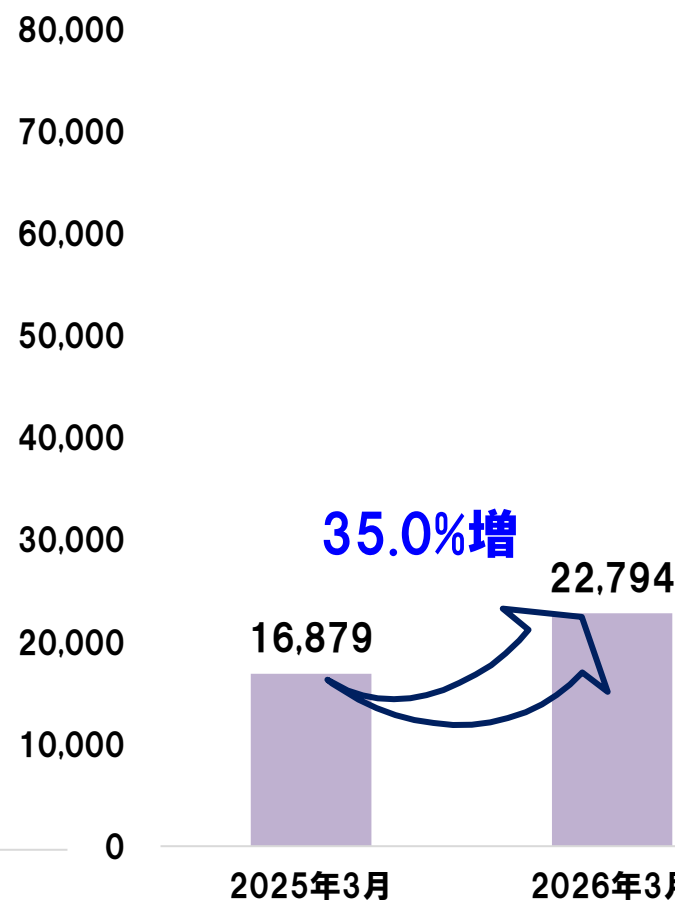
<SBI岡三アセットマネジメント>

<レオス・キャピタルワークス>

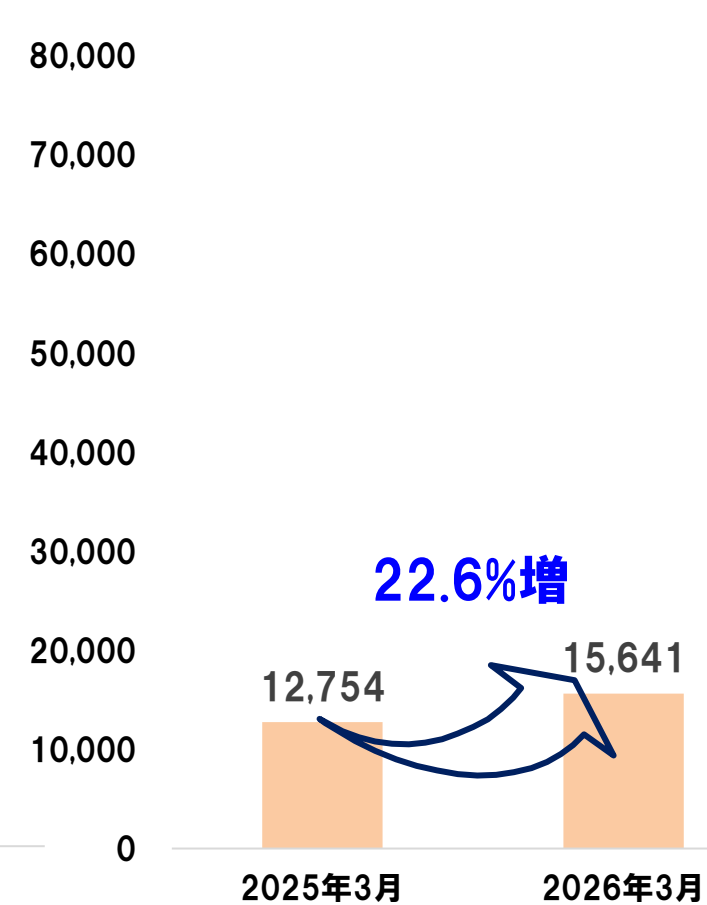
(単位:億円)



(単位:億円)

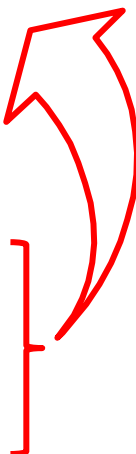


(単位:億円)



3社の成長によりグループ合計の運用残高は加速度的に拡大

順位	運用会社	純資産残高(億円)
1	野村アセットマネジメント	780,122
2	三菱UFJアセットマネジメント	563,429
3	大和アセットマネジメント	404,265
4	アモーヴァアセットマネジメント	363,871
5	アセットマネジメントOne	219,675
6	三井住友DSアセットマネジメント	167,835
7	三井住友トラストアセットマネジメント	166,050
8	ブラックロック・ジャパン	152,031
9	SBIグローバルアセットマネジメント	112,342
10	インベスコアセットマネジメント	107,960
12	SBIアセットマネジメント	76,916
25	SBI岡三アセットマネジメント	21,605
29	レオス・キャピタルワークス	13,821



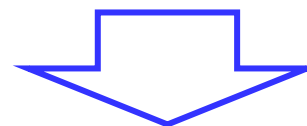
希薄化を上回る利益成長によりEPSは大幅に増加

当期利益+87%が株式数増加+54%を上回りEPSは増加

(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
当期利益	16.5億円	30.7億円
期末発行済み株式数	89,673,600	138,064,311

SBI岡三の7カ月分
レオスの4カ月分の
数値が含まれるが、
2社とも通期フルに
寄与していない実績



一株当たり利益(EPS)	18.37円	28.30円
--------------	--------	--------

統合による成長は株価に十分反映されていない



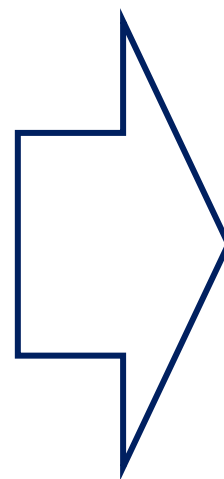
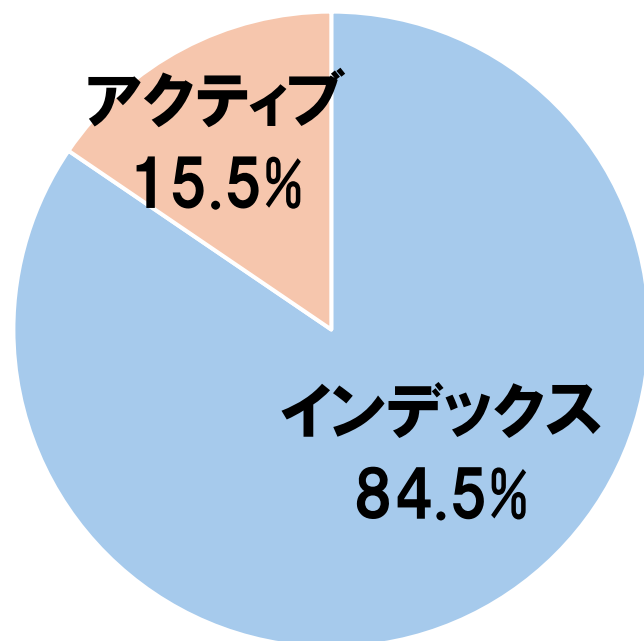
成長の質を高め、次のステージへ

運用会社3社による商品開発・運用力の連携と拡充

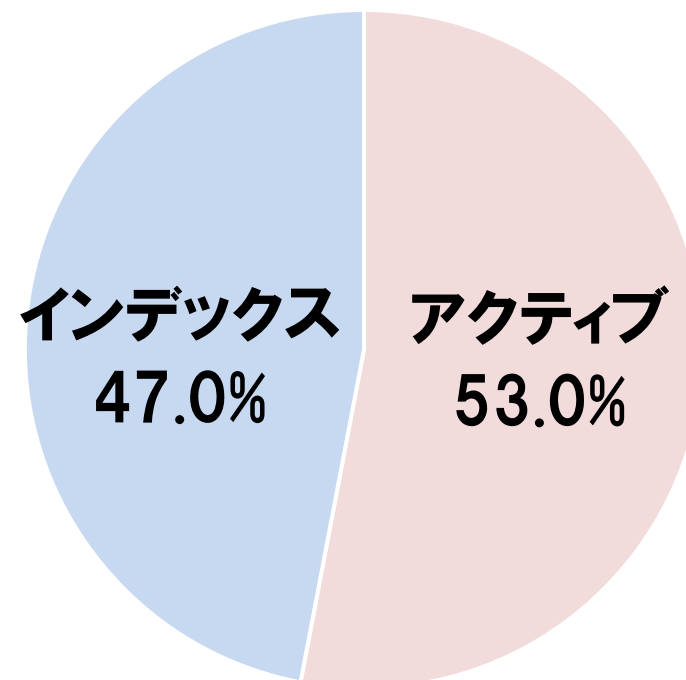
量から質へ 運用モデルの進化



顧客本位・長期投資を支える
低コストモデル



インデックス & アクティブの最適バランス
により、持続的な成長モデルを構築



※2026年4月3日時点、対象は公募投信（ETF・DC専用ファンドを除く）

「インデックス・アクティブ」から、「オルタナティブ・デジタル」へ 収益性の高い成長モデルへ進化

「インデックス」から「アクティブ」、そして「オルタナティブ・デジタル」へ
運用の“質”を高めることで持続的な企業価値向上を実現する

インデックス中心

アクティブ運用

オルタナティブ・デジタル

規模の拡大

収益性の向上

高収益化



PIMCO



KKR



JVパートナー共創で次世代運用モデルを構築し、 革新的プロダクトを創造する



<伝統的資産:JV>

<オルタナティブ:JV>

株式のアクティブ運用

債券のアクティブ運用

オルタナティブ戦略

オルタナティブ資産

デジタル資産



PIMCO



KKR



ALLIANCEBERNSTEIN®

株式・債券等のインデックス運用
「業務提携」



Vanguard®

iShares®
by BlackRock

海外展開とM&Aにより成長を加速

- 海外の政府系ファンド(SWF)、機関投資家、ファミリーオフィス向けに、オーダーメイド型の私募ファンドを組成
- 海外の個人投資家向けに、日本株を投資対象とした投信・ETFを提供
- 海外の有力運用会社の買収による事業基盤の拡大

レオスは世界最大の政府系ファンド
(ノルウェー政府系年金)から運用資金を受託

海外の有力運用会社の
買収による事業基盤の拡大



外部運用委託先リスト(一部抜粋)

Quad Investment Management

Quantum Advisors Private Limited

Red Gate Asset Management

Rheos Capital Works

Ryo Gestao de Recursos

Sancta Capital Advisors

Sanlam Investments

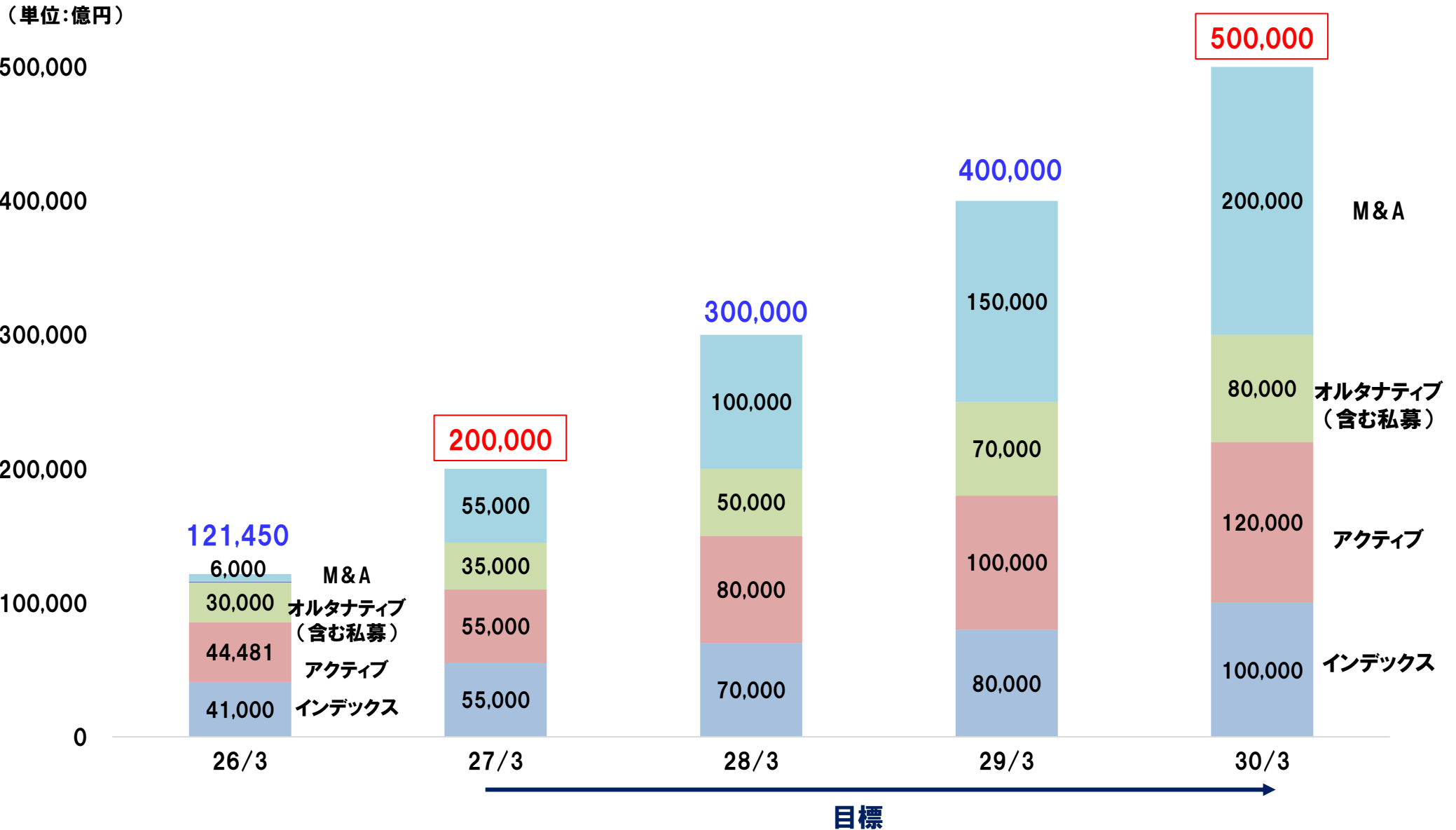


米NYの運用会社

買収

20兆円を突破し、50兆円へ — 成長は加速

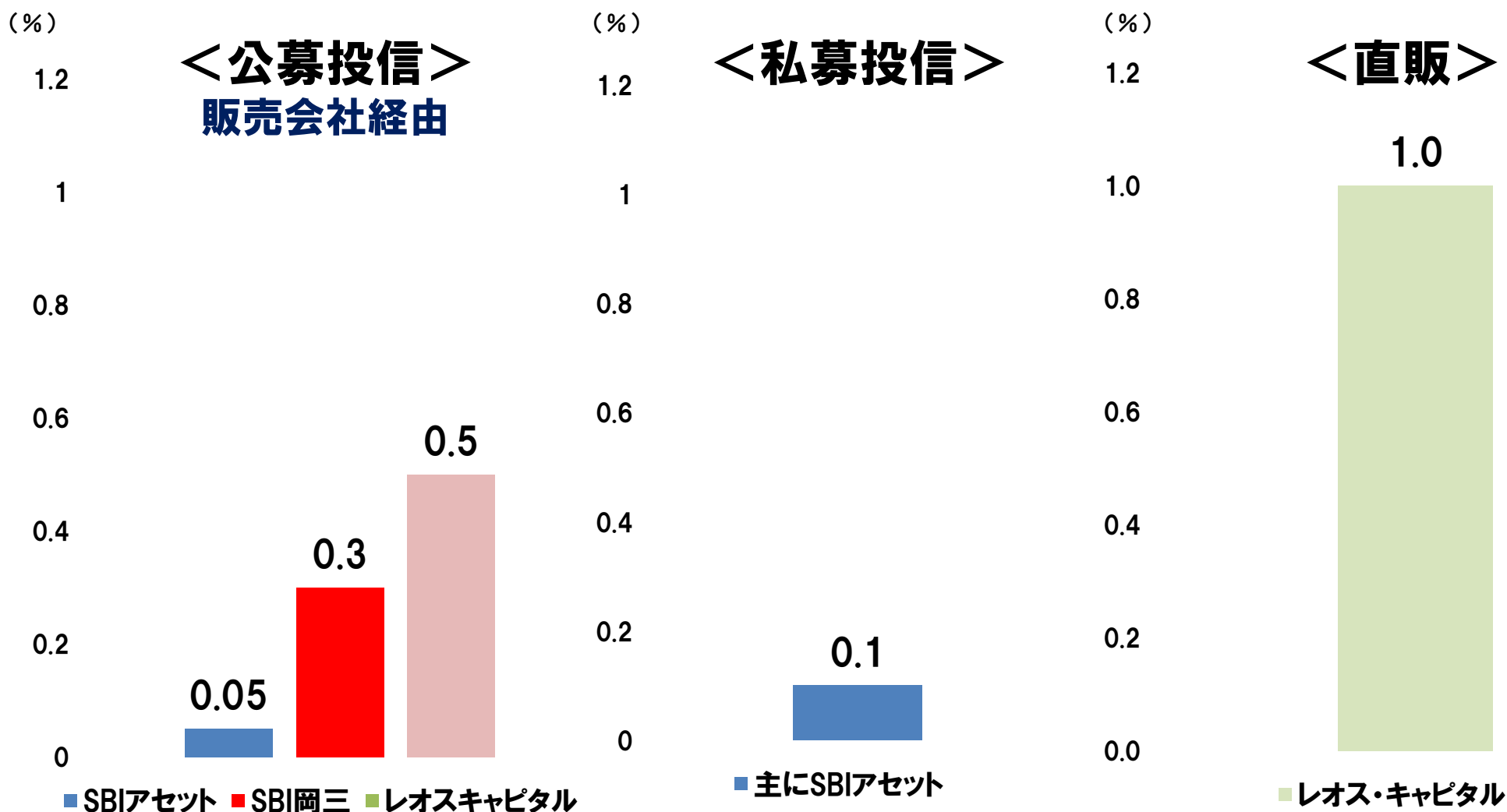
オルタナティブ・海外M&Aにより、高収益の運用残高を拡大



3社の役割分担により、低コストと規模の拡大を実現

今後は規模の拡大と収益追求の両立へ

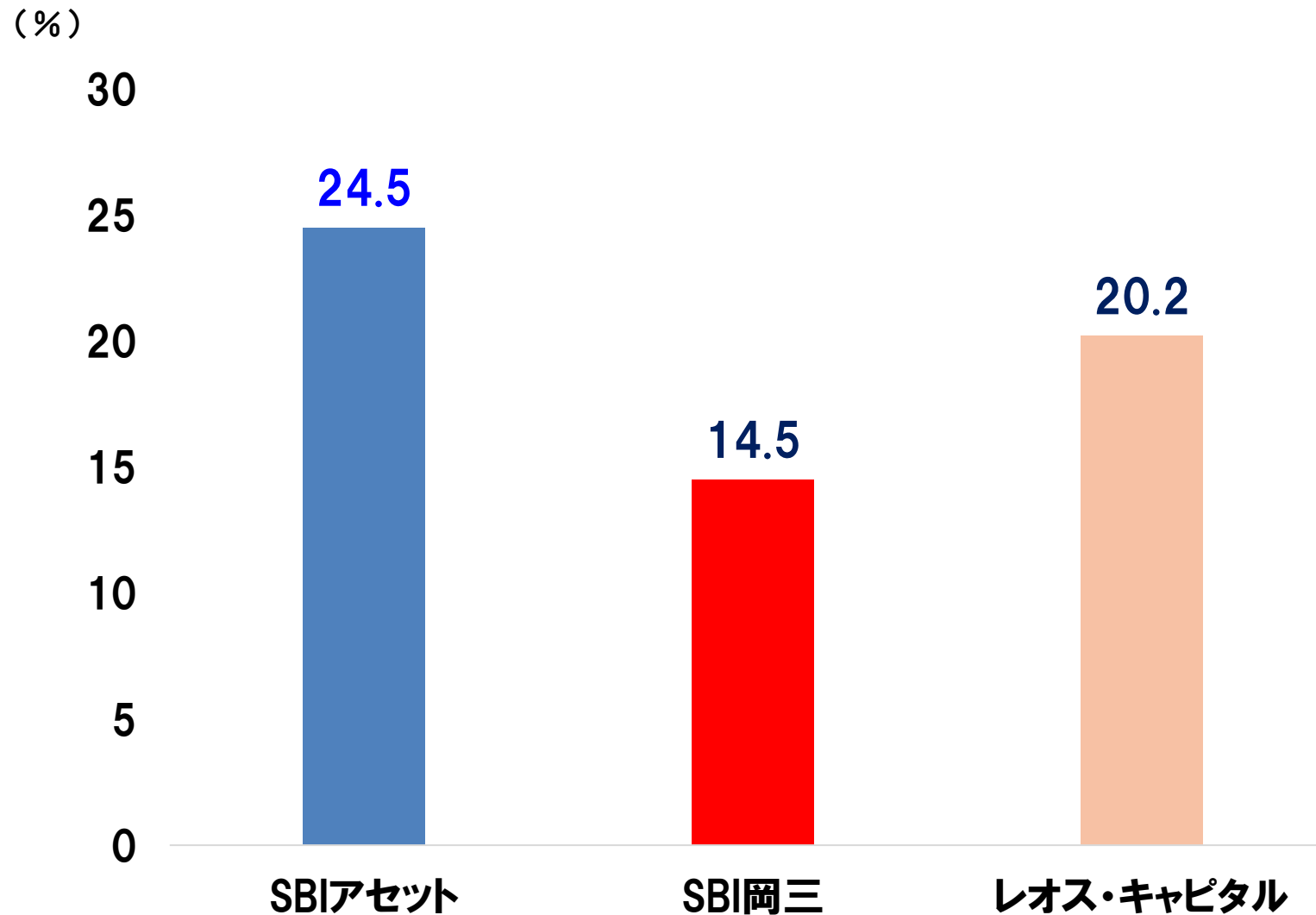
3社の運用残高に対する運用報酬率(信託報酬の運用部分)



*2026年3月期の各社の数値から算出。私募投信の1割弱がSBI岡三。レオスの公募投信の数値は販社経由。

効率的な運営によりグループ全体で高い利益率を追求

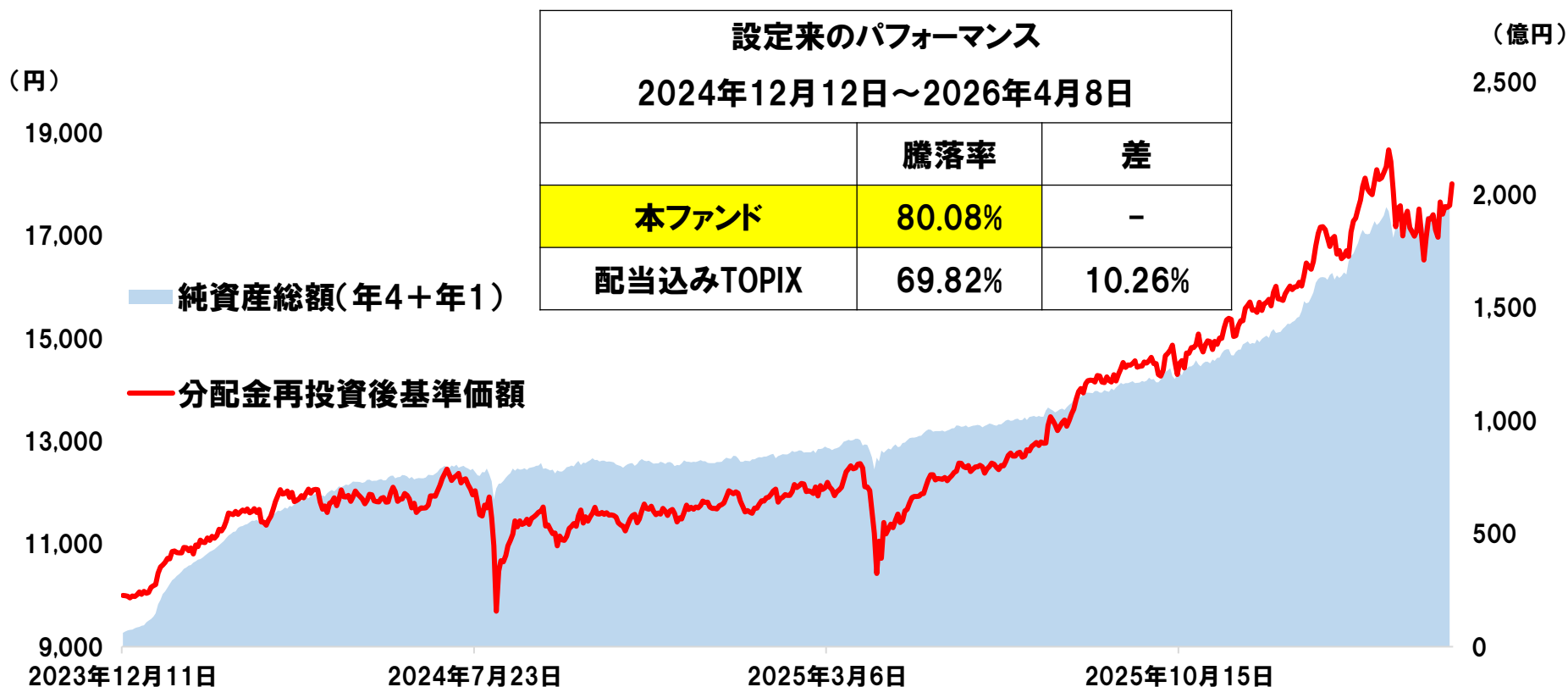
3社の営業利益率（2026年3月期）



『SBI日本高配当株式ファンド』は低コストと高パフォーマンスで急成長、純資産2,000億円を突破

信託報酬:0.099%は国内株式型ファンド全体の中で最安

年4回決算型は、公募の国内株式型で高配当を目指すファンドの中で第3位の純資産規模

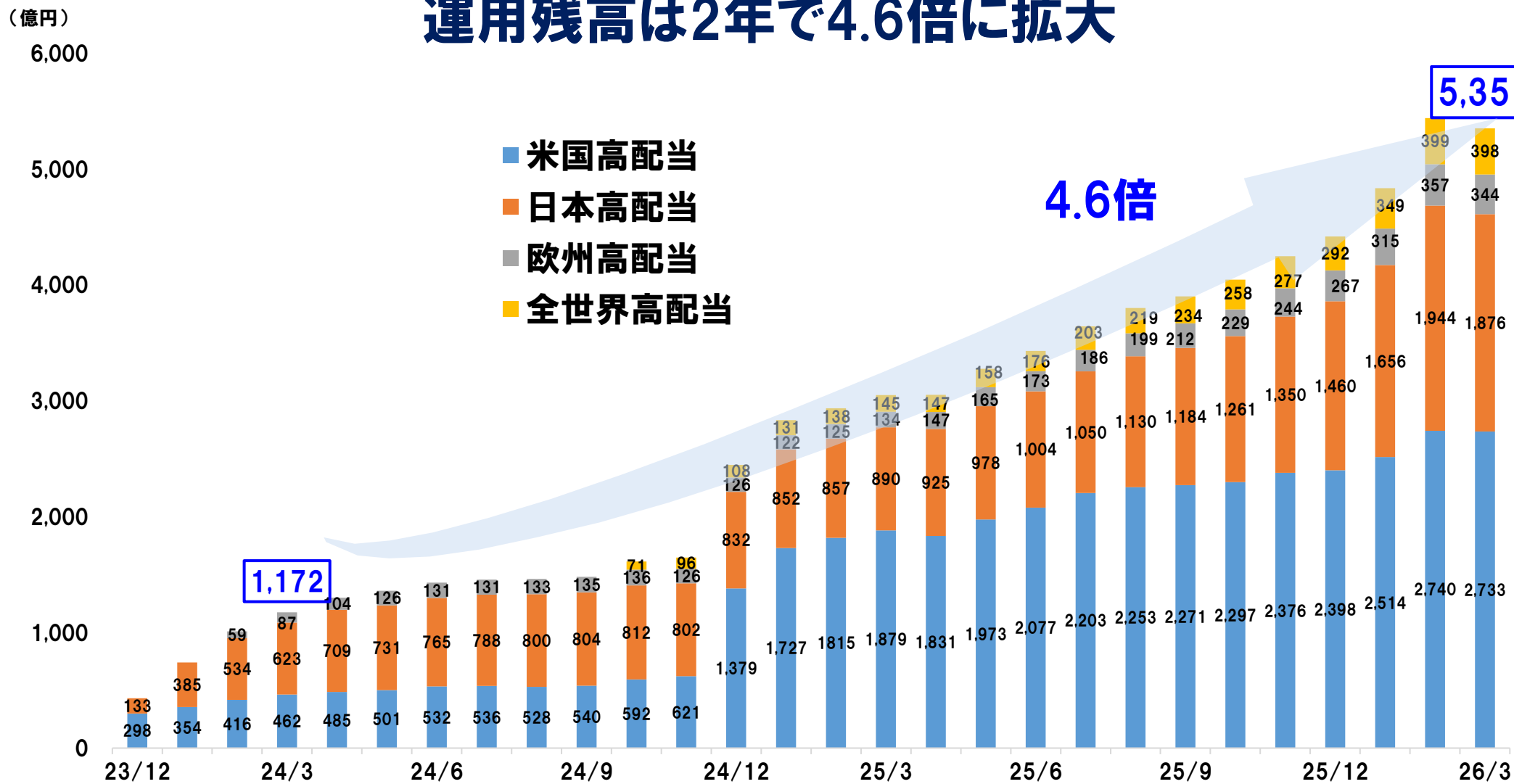


※ 国内公募追加型株式投信(ETF除く)のうち、2026年3月末時点で国内株式型に属し、ファンド名に「配当」を含むファンドが対象。残高は3月末時点。

※ 日本の高配当株に投資を行う43ファンドをインデックス化した比較。

高配当株式ファンドは急成長し、運用残高は大幅に拡大

運用残高は2年で4.6倍に拡大



運用残高の拡大とともに運用報酬率の向上へ

「低コスト商品 & オルタナティブ」へ

SBIアセットの売れ筋ファンドの運用報酬

	ファンド名	運用会社報酬 (%)
1	SBI・iシェアーズ・ゴールド ファンド(為替ヘッジなし)	0.022
2	SBI・V・S&P500 インデックス・ファンド	0.022
3	SBI 日本高配当株式(分配) ファンド(年4回決算型)	0.0375
4	SBI・V・全世界株式 インデックス・ファンド	0.022
5	SBI・S・米国高配当株式 ファンド(年4回決算型)	0.022

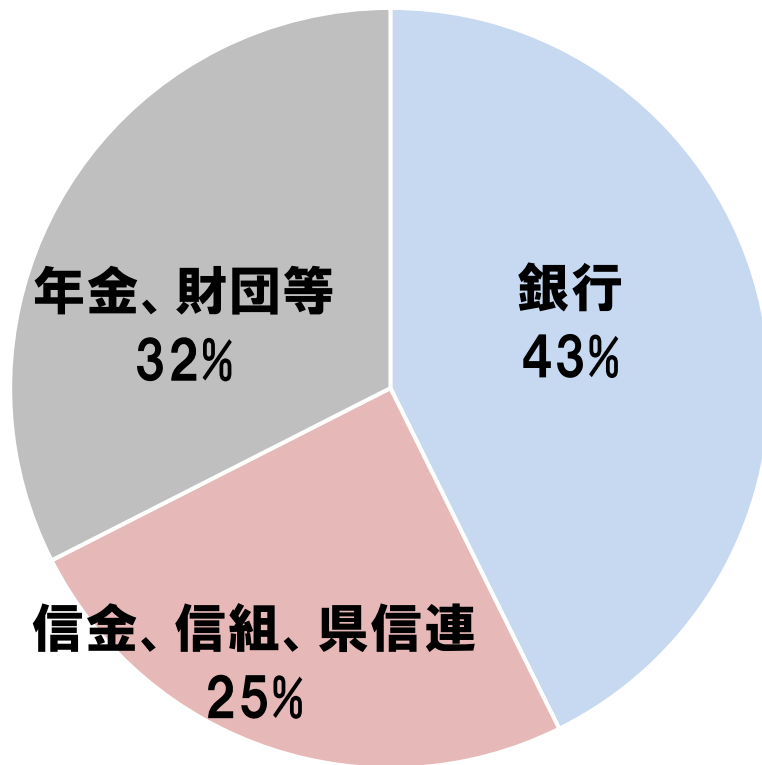
&

運用パートナーとの共創ファンドの運用報酬

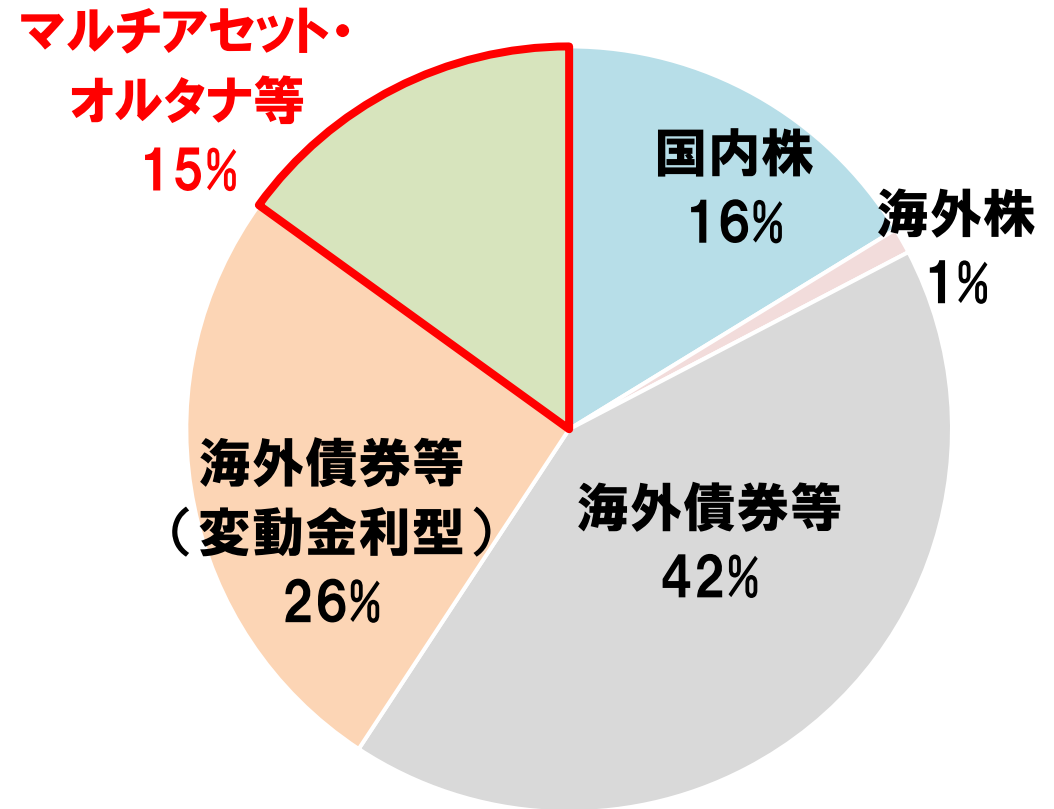
	ファンド名	運用会社報酬 (%)
Man	SBI-Man リキッドトレンド	0.11
KKR	SBI オルタナティブ・ハイ インカム・セレクト・ファンド	0.15
ダルトン	SBI ダルトン日本アジア・ アクティビストファンド	0.38

機関投資家の分散投資ニーズの拡大を捉え、 オルタナ領域で収益性を強化

私募ファンド受託 157社 の投資家別構成比



私募ファンドの受託資産の構成比



「プロダクト・ガバナンス」方針を着実に実行し、 商品ラインナップ改革を推進

方針:アクティブ型公募投資信託57ファンドについて3年以内の半減 (2023年6月策定)

<償還済ファンドおよび償還予定・検討ファンド>

No.	ファンド名	償還日
1	SBIポストコロナ ファンド	2023/07/05
2	早期償還条項付・新興国債券戦略1912	2023/07/06
3	米国好配当株プレミアム戦略ファンド(毎月分配型)株式コース	2023/07/26
4	米国好配当株プレミアム戦略ファンド(毎月分配型)株式&通貨コース	
5	SBI・GS NexGen(代替エネルギー)	2023/09/21
6	SBI・GS NexGen(グローバルEV)	
7	SBI・GS NexGen(高成長DX)	
8	SBI・GS NexGen(先端医療)	
9	SBI・GS NexGen(次世代通信)	
10	SBI ジェンダー・フリー インデックス・ファンド	2023/09/21
11	SBI地方創生・世界高配当株式ファンド(為替ヘッジあり)<資産成長コース>愛称:7・5・3(しち・ご・さん)	2023/11/06
12	SBI地方創生・世界高配当株式ファンド(為替ヘッジあり)<年3%定率払出しコース>愛称:7・5・3(しち・ご・さん)	
13	SBI地方創生・世界高配当株式ファンド(為替ヘッジあり)<年5%定率払出しコース>愛称:7・5・3(しち・ご・さん)	
14	SBI地方創生・世界高配当株式ファンド(為替ヘッジあり)<年7%定率払出しコース>愛称:7・5・3(しち・ご・さん)	
15	SBI-PIMCO ジャパン・ベターインカム・ファンド(愛称:ベタイン)	2023/11/09
16	SBI世界高配当株プレミアムファンド(為替ヘッジあり)<資産成長コース>	2024/01/12
17	SBI世界高配当株プレミアムファンド(為替ヘッジあり)<年7%定率払出しコース>	
18	SBI世界高配当株プレミアムファンド(為替ヘッジあり)<年15%定率払出しコース>	
19	SBI S&P500パリ協定 インデックス・ファンド	2024/07/05
20	グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(毎月分配型)	2024/12/17
21	オリックス 世界国債ファンド(グローバル・ダイナミック・デュレーション)(為替ヘッジあり)	2025/04/18
22	オリックス 世界社債アクティブファンド(為替ヘッジあり)	
23	オリックス 先進国株式マーケット・プラス・ファンド	
24	SBI 日本株3.8ペアII	2025/09/22
25	SBI中国テクノロジー株ファンド	2025/11/21
26	ビムコ世界金融ハイブリッド証券戦略ファンド(毎月決算型・通貨プレミアム)	2026/02/17
27	SBI・ワールドラップ・セレクト	2026/08/13
28	SBI米国小型成長株ファンド	繰上償還見込
29	SBI日本小型成長株選抜ファンド	償還検討中

残り2本

世界トップクラスの運用会社と連携し、オルタナ領域を確立



PIMCO

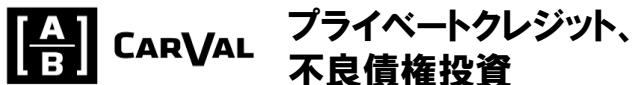
- ・資産担保型ファイナンス
- ・コーポレートクレジット
- ・不動産クレジット

	米國中堅企業に特化したダイレクト・レンディング
	米国ニューヨークのプライベートクレジット

	<アルセントラ> 欧州のプライベート・デット
	<ベネフィット・ストリート> 米国のプライベート・デット
	<クラリオン・パートナーズ> プライベート不動産戦略
	<レキシントン・パートナーズ> プライベート・エクイティ



KKR



プライベートクレジット、
不良債権投資

プライベート・エクイティ
プライベート・エクイティ(バイアウト型)
プライベート・エクイティ(グロース型)
プライベートデット、クレジット
オポチュニスティック・クレジット(KKR旗艦ファンド)
バンクローン(欧米のバンクローン)
CLOエクイティ(欧米CLOのエクイティに特化)
(ダイレクト・レンディング等)

リアル・アセット: 不動産・インフラ・エネルギー

相場に左右されない収益追求型の 「SBI-Man リキッド・トレンド・ファンド」

上昇・下落の両局面で収益機会を捉え、高いパフォーマンスを実現

<過去1年>	当ファンド	カテゴリー平均 (ヘッジファンド)
年間リターン	28.6%	6.1%
シャープレシオ	1.32	0.55



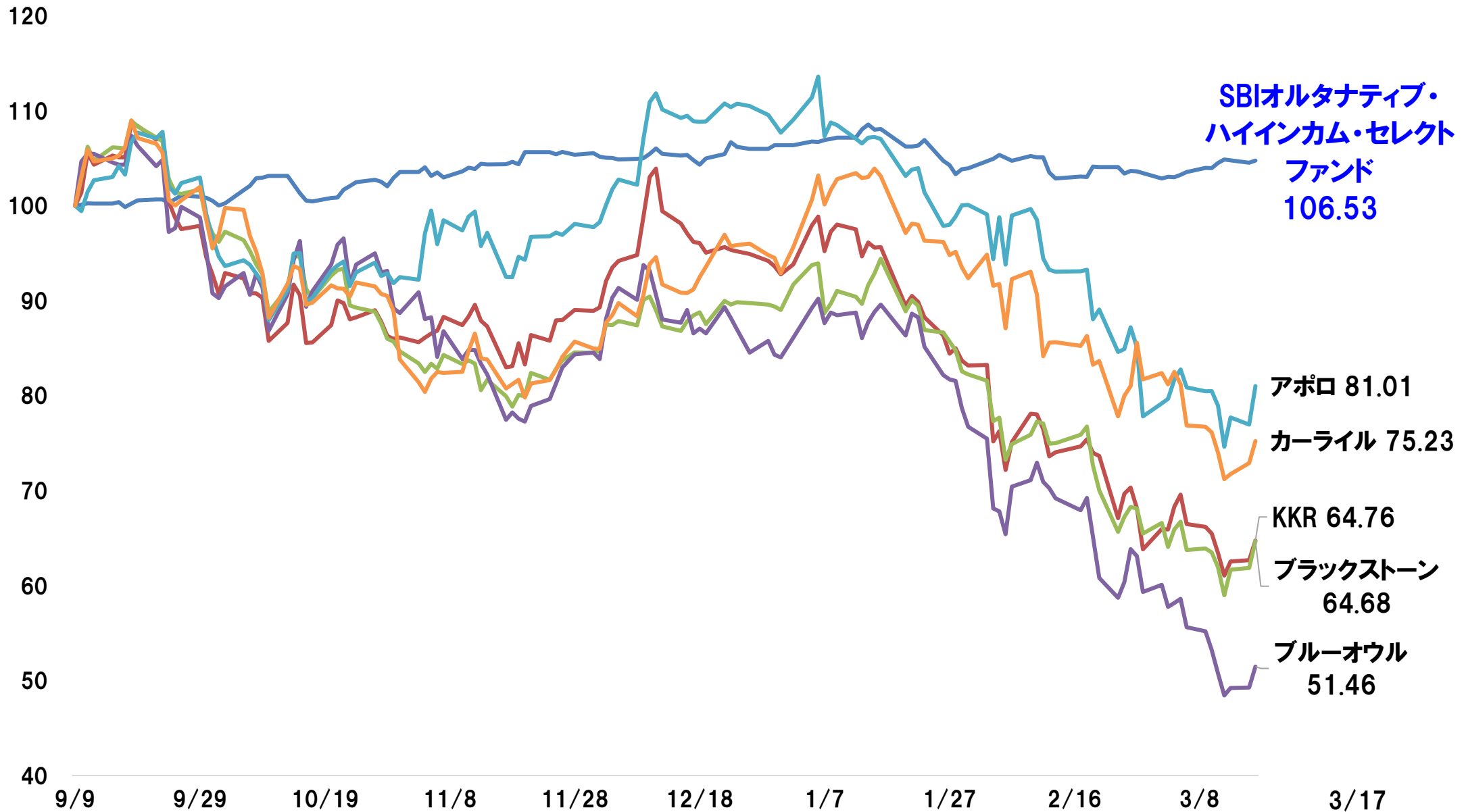
KKRを含む世界大手運用会社のノウハウが結集 「SBI オルタナティブ・ハイインカム・セレクト・ファンド」

プライベート・クレジットに少額で投資ができ、
設定・解約は日次で可能な本邦初のファンド

KKRを中心に世界の力が結集 オルタナ運用会社のオールスター



プライベートクレジットへの懸念が高まる中でも 安定した運用を継続



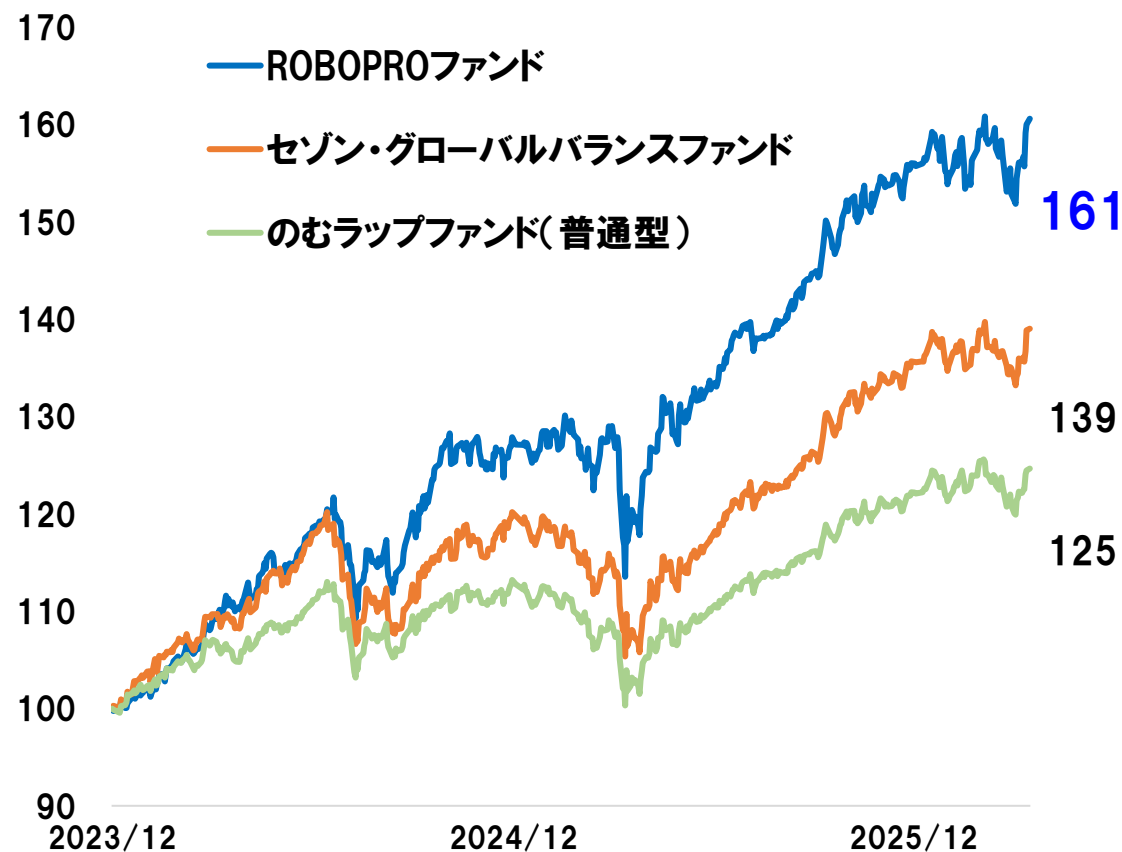
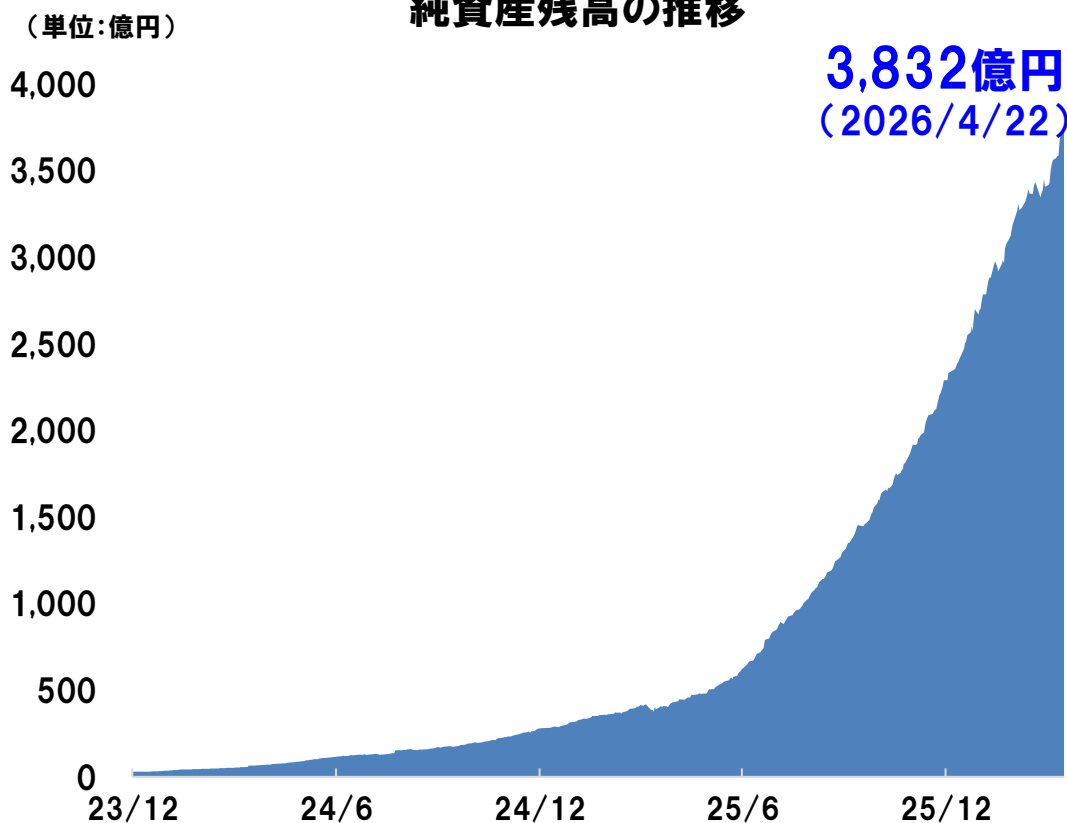
ファンド設定日(2025年9月9日)に、ファンドの基準価額と、大手運用会社の株価を100として指数化

「ROBOPROファンド」は、高パフォーマンスを背景に、運用残高は急拡大

純資産3,800億円を突破

設定来のトータルリターンは60%超

純資産残高の推移



※期間:2023年12月28日(当ファンド設定日)~2026年4月22日

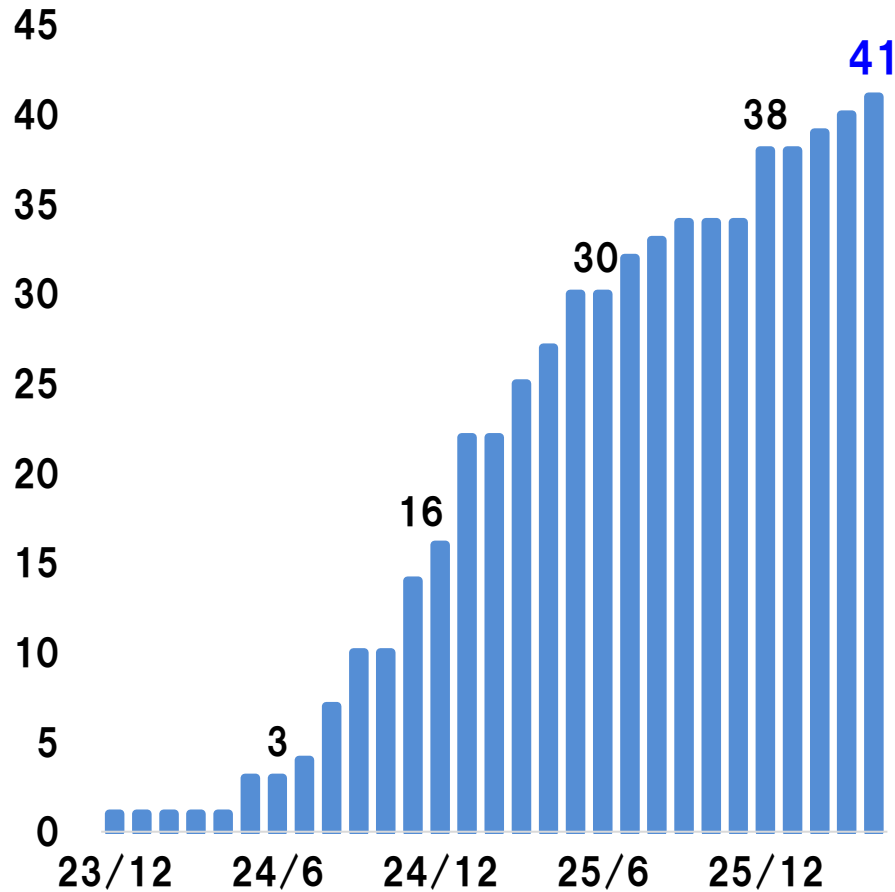
※期間:2023年12月28日(当ファンド設定日)~2026年4月13日

※設定来トータルリターン:分配金再投資基準価額ベース

販売チャネル拡大と商品展開により成長を加速

「ROBOPROファンド」
販社数推移 (26/4/15現在)

(単位:社数)



「ROBOPRO戦略」の展開-新しい商品ラインナップの拡充-
(機関投資家向け、公募単位型、確定拠出型年金向け)

設定日	ファンド名	特徴
2024年7月19日	私募ROBOPROファンド (機関投資家専用)	私募 機関投資家向け
2025年12月29日	ゴールドマン・サックス 社債/ROBOPRO 戦略ファンド2025-12	公募・単位型 元本確保型
2026年3月30日	ゴールドマン・サックス 社債/ROBOPRO 戦略ファンド2026-03	公募・単位型 元本確保型
2026年4月15日	DC ROBOPROファンド	確定拠出年金向け

「ひふみクロスオーバーpro」は未上場株投資ファンドでNo.1 競争優位を確立

未公開株組入れ上限15%の一時超過を容認へ

項目	ひふみクロスオーバーpro	野村日本新鋭成長株ファンド	fundnote IPOクロスオーバー ファンド (匠のファンド あげぼの)
運用会社	レオス・キャピタルワークス	野村アセットマネジメント	fundnote
純資産総額 (2026/4/14時点)	507億円	371億円	23億円
NISA	○	×	×
販売会社数	25社 (直販／証券16／銀行7 ／信金1)	1社 (野村証券のみ)	1社 (fundnote直販のみ)

直販モデルの強化により収益性を飛躍的に向上

レオスの直販基盤を活用し、グループの運用商品を直接提供

グループ一体化を加速し、直販戦略を強化

- ・現在の直販口座数は約60,000、預かり資産残高は3,000億円超
- ・直販口座提供のファンドは、「株主優待」の付与も柔軟に対応可能

SBI Asset Management

SBI 岡三アセットマネジメント

良質な運用商品を提供

RHEOS CAPITAL WORKS

直販

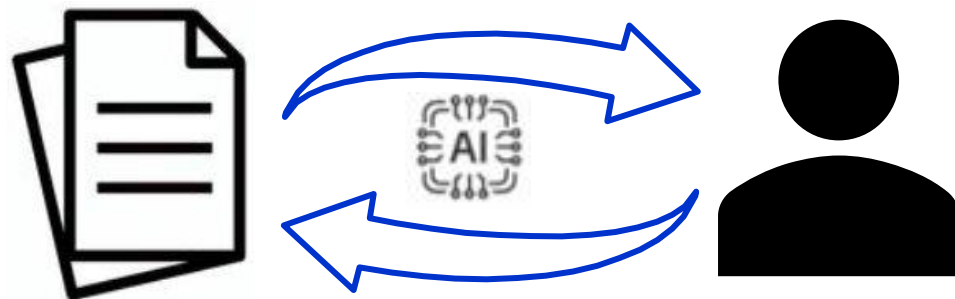
社名変更によりグループ一体化を推進
2026年12月1日
レオス・キャピタルワークスから
「SBI レオス・キャピタルワークス」へ

AIの活用により運用業務の効率化と収益性向上を実現

ミドル・バックオフィス業務の自動化によりコスト構造を改善

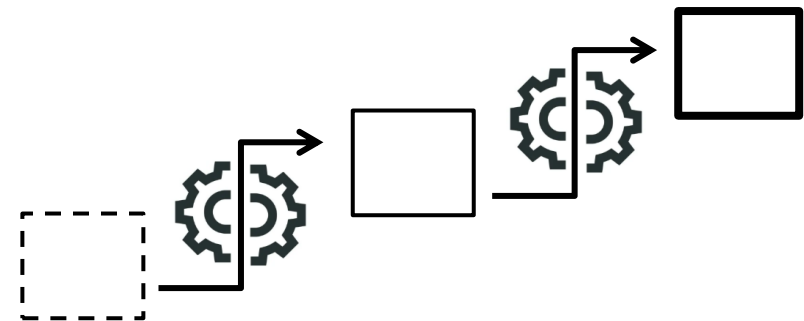


コンプライアンス・リスク管理の高度化



- ・開示資料(法令・協会規則等)チェック
- ・デューデリジェンス関連資料の翻訳、要約

業務オペレーションの効率化



- ・ヘルプデスク業務のチャットボット化
- ・対外文書の雛形作成と整合性確認作業

業務統合・効率化によりコスト構造を改善し収益性を向上

デジタル領域への展開により、 次世代運用グループへ進化

暗号資産ETF・投信の組成により新たな成長機会を創出

国内上場ETFおよび公募投信の活用により 暗号資産投資の裾野を拡大



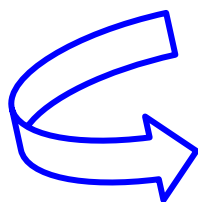
EZBC Franklin Bitcoin ETF

XRPZ Franklin XRP ETF

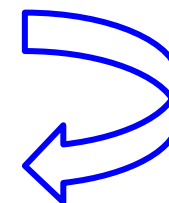
EZET Franklin Ethereum ETF

EZPZ Franklin Crypto Index ETF

指数の構成暗号資産：Bitcoin / Ethereum /
XRP / Solana / Dogecoin / Cardano / Stellar
Lumens / Chainlink の 8資産



「暗号資産ETF」の東証・PTS上場



「暗号資産ETF」に投資する「投資信託」を設定し、
投資家が定時定額の積み立て投資にも活用出来るようにする

フランクリン・テンプレトンの実績あるデジタル基盤を 活用しトークン化を推進



トークン化MMF「BENJI」を既に展開

- 公募MMFをトークン化する独自基盤(BENJI)
- 米国に加え、欧州UCITS型MMFへ展開
- 担保・決済など実利用領域へ拡大



暗号資産運用まで含めたデジタル戦略を構築

- 暗号資産アクティブ運用の専門部署を新設
- 暗号資産運用会社Coin Fundの買収で運用人材・戦略を獲得



トークン化と暗号資産運用は既に実装段階へ

オンチェーンで投資家リターン向上と高収益化を実現

SBIグループ連携により、商品設計から取引・決済まで一体化

決済・送金
(JPYSC)



インフラ
(Strium)



SBIオンチェーン
資産運用プラットフォーム

「あらゆる資産がオンチェーンに」

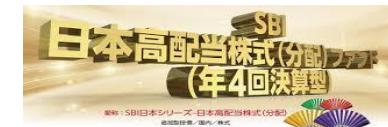
投資家メリット

- ・24時間365日取引
- ・即時送金(JPYSC)
- ・ドル建てステーブルコインも対応
- ・DeFi活用による利回り向上

商品設計



「SBI日本高配当株式ファンド」を
オンチェーン化ファンドで検討



取引
(DigiFT)

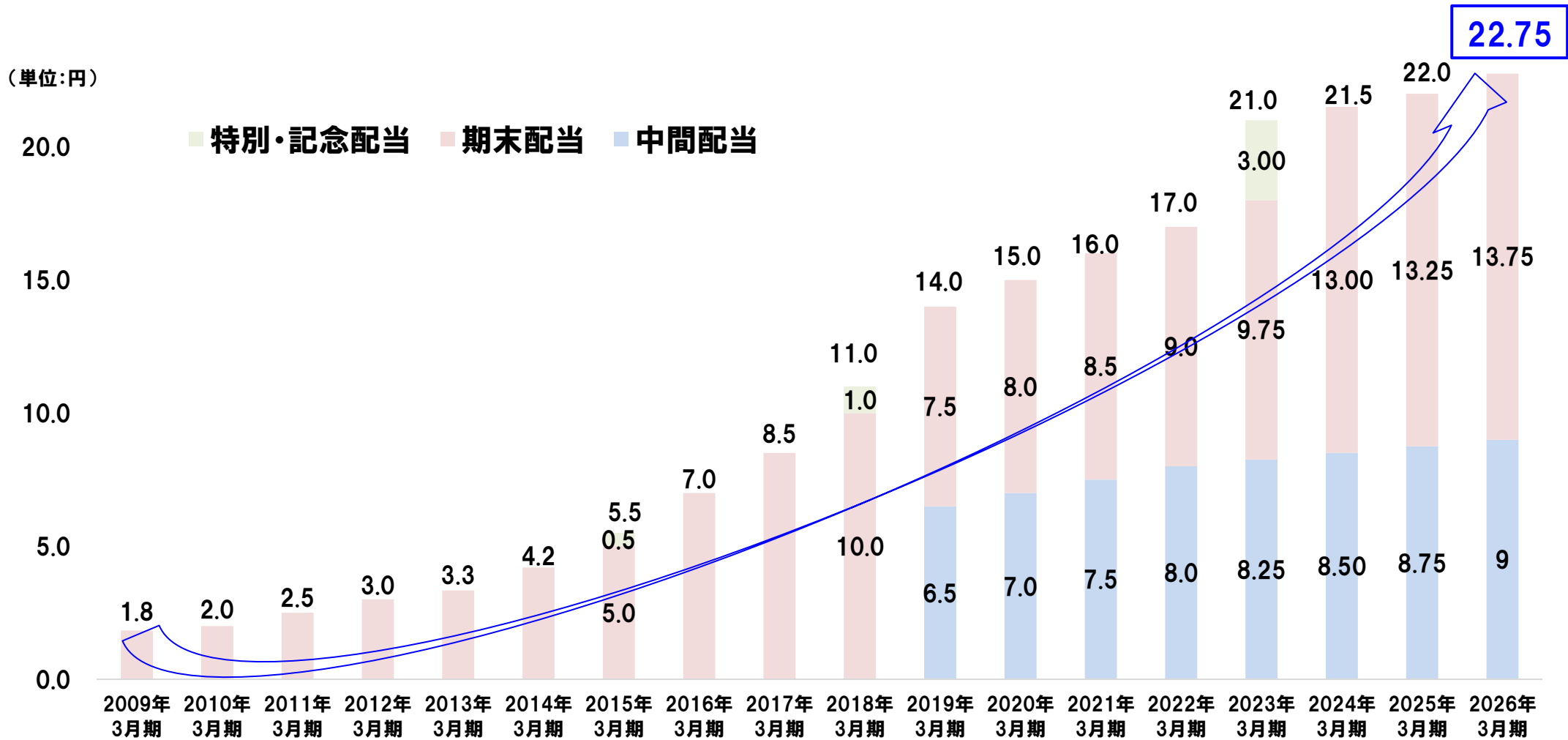


投資家の利便性向上と同時に、当社の収益機会を多層化

配当と優待の両面で株主還元を強化

17期連続増配を継続し、株主還元は着実に拡大

期末配当金は1株当たり13円75銭。中間配当金(9円)と合わせた年間の合計配当金は22円75銭となり、前期比75銭の増配



※ 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当
 ※ 2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当
 ※ 2023年3月期の特別・記念配当は、ブランド売却による特別利益計上と設立25周年による記念配当

株主優待を拡充し、株主還元を一層強化

2026年3月期の株主優待

	XRP	ひふみクロスオーバーPro (投資信託)
1单元(100株)以上 5单元(500株)未満	2,500円相当	-
5单元(500株)以上 継続保有期間1年未満	10,000円相当	2,500円相当
5单元(500株)以上 継続保有期間1年以上	12,000円相当	2,500円相当

<記念優待>

	XRP	アラプラス ゴールドEX
10单元以上(1,000株以上)	3,000円相当	定価 11,800円